

# 町史

## とっておきの話

295

国立科学博物館  
分子生物多様性研究資料センター

よしかわ なつひこ  
吉川 夏彦

### カエルとサンショウウオの楽園・ただみ④

#### 只見町のカエル①

両生類と言って真っ先に思い浮かぶのは、やはりピョンピョン跳ねて水田でもよく鳴いているカエルでしょう。田んぼや小川で捕まえて遊んだり、オタマジャクシをすくったりした思い出のある方も多いのではないのでしょうか。福島県には全部で一種のカエルが生息しており、そのうち只見町では九種を見ることが出来ます。

カエル類はサンショウウオ類以上に多様な生態を持っており、生息環境や産卵の場所、時期、鳴き声などが種によって違います。とくに鳴き声はカエル類の大きな特徴の一つで、カエルを直接目にしなくても自然と耳に入ってきます。町のどこにいても何かしらのカエルの声を聴くことができ、春から夏の町内の風景の中には賑やかな、あるいは優雅なカエルの鳴き声が含まれていて、季節の移り変わりを感じさせてくれます。カエルは繁殖の時期にオ



▲ツチガエル 水田や池に多く、背中にイボがあり、捕まえると臭いを出す(長浜)



▲シュレーゲルアオガエル 鳴き声はよく聞くが、土中で鳴くため見かける機会は少ない(南会津町)

スが鳴くものがほとんどで、鳴き声にはメスを惹きつけたり、他のオスに対して自分の縄張りを主張したりする効果があります。鳴き声はカエルの種類によって違い、声を聴いただけでも種類を判別することが出来ます。水田で元気に鳴くニホンアマガエルや溪流で優雅に鳴くカジカガエル、山の湧き水の中で犬のような声で鳴くタゴガエ

ルなど、聞き分けられるようになってきます。上級者になれば鳴いているカエルの種類からその周囲がおおよそどのような環境なのか推測したりすることも出来ます。最近ではCD付きの図鑑やインターネット上で鳴き声を紹介しているサイトなどもありますので、カエルの声の聞き分けに挑戦してみてください

はいかがでしょうか。

只見町内の各所に広がる水田はカエル類にとって成体の住処として、また産卵場所やオタマジャクシの生育場所としてもとても重要な環境の一つです。水田やため池などを主な住処にするのはトノサマガエル(只見方言「しまびつき」)やツチガエル(「とすびつき」)などの水生の傾向が強くて水からあまり離れないカエルたちで、いわゆる田んぼのカエルとして比較的よく知られています。トノサマガエルの鳴き声は一般にイメージされるカエルの声に近い、ンゲゲゲという声で水田の真ん中の方でよく鳴いています。ツチガエルはギユウギユウという声のため池や水路などで鳴いているのをよく見かけます。緑色の体でおなじみのニホンアマガエル(「あめびつき」)は人家や田畑の周りの草地にすんでいます。水田に水が入る時期になると産卵に訪れて大きな鳴き声を響かせます。

町内の水田の多くは山林に隣接しており、そのため森林にすんでいるカエル類の産卵場所としても使われています。町内で「あおびつき」と総称されるモリアオガエルやシュレーゲルアオガエルは普段は森林の木の上で生活し、産卵のために湿地や池に降りてきます。そして人家周辺の水田の畔やため池も産卵場所として利用します。モリアオガエルはやや大型のカエルで、六月ごろに少しくぐもったようなコココッといった声で鳴き、畔や水際の草の上、池の上に張り出した木の枝などに白い泡状の卵塊を産むので見たことがある方も多いと思います。本種は樹上で産卵することで有名で、町内全域に生息していて個体数も多いカエルです。シュレーゲルアオガエルはあまり聞きなれない名前ですが、モリアオガエルよりも小型で外見はニホンアマガエルに似ています。町内での個体数は多く、五月六月ごろに水田でカララッという軽快な鳴き声を響かせ、畔の水際の土中に潜って白い泡状の卵塊を産みます。モリアオガエルと違って卵塊が地上に露出することはまれですが、田起こしや代掻きの際に掘り起こされて水面に浮かびます。